【霊総受け】
愛執

【霊総受け】愛執【島、峯、統、蘆、森、浄】

朱音

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=22312886

R-18G, 二次創作, 腐向け, モ腐サイコ100, 霊幻総受け

師匠総受け、総愛されwebイベント展示品。
2024.10.
ネタの一部を某様より許可頂きました。ありがとうございます(礼)

※死にネタ
・師匠の体を生きたまま切り分けています(苦痛はありません)
・攻達が体の一部に話しかけます
・統の嫁(生死不明)
・倫理観の崩壊
・リョナ

◇みんな仲良く、平等に、愛する男の身体を切り分けた。
たった一つ、どこを誰が所持するかは、愛する彼との約束を守って。

感想頂けると跳ね飛んで喜ぶ妖怪です。
一言、長文、発狂？うぇるかむ(｀・ω・´)
マシュマロ：https://marshmallow-qa.com/hiiragi_syuin

Table of Contents

【霊総受け】愛執【島、峯、統、蘆、森、浄】

たとえば、無能力者を皆殺しに出来る能力者がたくさんいたとして。
たとえば、彼ら全員がたった一人の男に恋をしたとして。
彼らがそのたった一人を求めた殺し合いを始めたら、無能力者はどうなるだろう。

答えは簡単、みんなまとめてお陀仏だ。

なので、彼らは男、霊幻新隆の望み通り、その肢体（したい）を生きたまま切り分けた。
痛くはない、苦しくはない。切り分けた彼らは強大な超能力や霊能力を持っていたので、そんな事は朝飯前。

みんな仲良く、平等に、愛する男の身体を切り分けた。たった一つ、どこを誰が所持するかは、愛する彼との約束を守って。

島崎亮・左腕

「感じますか、いい空気ですね」
テレポート適性が高かった事を、これほど喜んだ事はない。成人男性の肩から綺麗に切り落とされた左腕を持っていても、旅行が可能なのだから。
日本ならば公共の交通機関を使っても作り物と思われる可能性は高いが、少しでも騒ぎになるのは面倒だった。目が見えず他の部分が敏感な島崎にとって、人の呼吸も、視線も、鼓動も、煩（わずら）わしいものだったから。
冷たく澄んだ風が通る月夜の海辺で、赤子のようにブランケットに包まれた左腕に笑いかける。絡めていた指をほどくと、寂しそうに

震える愛らしい彼。その白い薬指に、するりと月色（つきいろ）の輪を通した。

「愛しています」

白銀（しろがね）色の月光に濡れる指輪に、爪の先がひくんと跳ねた。

———

峯岸稔樹・右足

植物たちのために暖かな陽の差す一室、そこに、たからものを隠すよう大事にしまわれた箱がある。陽光を避け影に沈んだ箱を開けると、彼の腿（もも）から先、右足が。
愛しさに目を細め、白いそれを爪の先で優しく、つ、と辿（たどる。ひくりと震えてくれた事に満足して頬を寄せた。

彼は、やっとなにものかになれたと心の底から笑い、僕達のたった一つになった。
ならばせめて大地に一番近い足から、峯岸に、自分だけに根を張って欲しいと願った。

———

鈴木統一郎・右腕

一度、誰かと共に在る事に慣れてしまうと、次からは独りに耐えられなくなる。教えてくれたのも、支えてくれたのも君だった。

机の写真立てを倒し、目眩（めくらま）しのかけてある白い腕に手を伸ばす。指を絡ませてから、そのうちの一本をすり、と撫（な）でた。

もう、送る側には立てそうもない。
君が彼らに最期を託すというのなら、嗚呼、その通りに。
今度は君が、私を送ってくれ。

————

蘆舅道然・胴

お前と私はどうしようもなく似ている。だからこそ、私に心臓を渡したのだろう。
お前の存在を永（なが）く維持できる能力者はいた。にも関わらず、彼らに胴を渡さなかった、それがお前の応えだ。

————それなら何故分からなかった。
お前に似ている、お前がお前の最期を求めたと分かっている、お前を心から愛する男は。どうしようもない心臓（むね）の孔（あな）を、あふれ続ける想いで満たすしか術がなくなると。

分かっていてやったのなら、とんでもない男に惚れてしまったものだとわらうしか。

————

森羅万象丸・頭

蘆舅に胴（しんぞう）を、森羅に頭（のう）を渡すなんて、酷い男がいたものだ。

唇を読むなんて出来やしない。頭だからといって意思の疎通を図（はか）れやしない。

お前はもう。

その結末をお前が望んだから。

間違いない事と言えば、お前はあの時、随分（ずいぶん）穏やかに微笑んだし、俺も笑い返（あい）している、ただそれだけ。
愛していると、伝わっただろうか。
必死に読み取った言葉は、

ありがとう

か

あいしてる

か

浄堂麒麟・左足

謝らないぞ、霊幻新隆。落とし合いが当たり前の世界だ。騙される方が悪い、落とされる方が悪い、そういう場所だ。そういう場所にいるからこそ、欠片ばかりでも人の善性を持ったままのキミは老いた身に酷くこたえた。
愛だの恋だのと喚（わめ）くつもりはない。
ただ、

「余りの足は私が預かってやる、ありがたく思え、小僧」

畳（たたみ）に敷かれた座布団に横たわる足が、間違いなく狂っていると。

？？？？

世界平和？

無辜（むこ）の民を守る？
違う違う、そもそも無辜の民なんてもの信じちゃないし。誰だって誰かを踏みつけて生きてるんだから。
俺もそうだ。
なにものかになりたいって願いは、他人がいて初めて成立する。
そう、ただ自分の欲のために動く事が、たまたま能力者の抑止に繋がっただけ。
身体のパーツを持ち続けるか、腐らせるかなんて、どっちにしろ狂気の沙汰だろ？

"俺を忘れる事なんて出来ない"

…………。

……そうだな。
誰も選べなかった優柔不断な自分のためでもある。

それは結局、なにものかになれた事になるのかって？

はは、面白い事聞くんだな？

アンタ、なにかひとつに執着した事はないか？何でもいい。
金でも、推しでも、自分でも。
家族、恋人、友人、敵、神。
家の隅にある埃（ほこり）が気になってわざわざ立ち上がった程度だって構わない。
一瞬でいい、頭の片隅でいい、思考を、想いを占領するもの。

ソレが誰かに執着してもらえたその瞬間、ソレはアンタにとって、

なにものかになってないか？

ただ、それだけの事さ。